

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：木文化再生 - 森林から都市へ ILAS Seminar :Conservation of Wooden Culture - From Forest to City			担当者所属 職名・氏名	地球環境学舎 教授 小林 広英 地球環境学舎 准教授 落合 知帆 フィールド科学教育研究センター 講師 坂野上 なお		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	8 (8) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	総合研究3号館4F 453号室(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	自然共生システム関連 / 森林・里山・都市 / 木材資源の活用 / 風土と木造建築 / 自然災害と木造建築						
[授業の概要・目的]							
わが国は優れた森林国でありながら国産木材の利活用は未だに高いとは言えない。一方、都市においても優れた木造文化を持ちながら、その継承が十分になされているとは言えない。このような状況下、木との関わりを私たちは今後どのように再構築していくべきだろうか。本講義では様々な事例を紹介しながら、森林や里山環境の在り方、日本の木材生産と森林の実態、地域に根ざした伝統木造建築（風土建築）の維持継承、都市木造建築の可能性、木造建築と災害などを概観し、日本の木文化再生について考える。							
[到達目標]							
わが国の森林とそれを取り巻く現状を体系的に理解する。さらに、木材資源を利用して成立してきた様々な形態の木文化について学び、その再生に向けた方向性を森林、里山、都市、建築、地域コミュニティ、防災など多角的な視点から考察する。また野外実習を通して、学んだ内容と現場との関連について理解する。							
[授業計画と内容]							
3名の教員が以下の講義を行う。 1. 日本の森林・里山の現状、日本の林業と今後（2回、坂野上） 2. 木文化としての建築（4回、小林） 3. 木造建築と災害（4回、落合） 4. フィードバック（1回、全教員） 以上の講義に加え上賀茂試験地での1日の野外実習（4回分に相当、5月下旬－6月中旬頃の週末で調整）を予定します。講義と実習で全15回分とします。 上賀茂試験地の往復交通費は自己負担とします（叡山電鉄 出町柳～京都精華大学 往復）。							
[履修要件]							
特になし							
[成績評価の方法・観点]							
平常点及び課題レポートによる評価。詳しくは授業中に説明する。							
[教科書]							
プリント配布							

ILASセミナー：木文化再生 - 森林から都市へ(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義受講後には必ず講義内容について総括して、メモを作成しておく必要がある。講義前には、それ以前に受けた講義に関するこれらのメモに必ず目を通しておくこと。

[その他(オフィスアワー等)]

文系学生の受講も歓迎する。学生教育研究災害傷害保険に各自加入しておくこと。

[主要授業科目(学部・学科名)]